

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部グループホーム		
所在地	佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	令和元年7月31日	評価結果確定日	令和元年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事はスタッフ自ら献立を考え、手作りで提供している。利用者の皆さんは、毎食ほぼ完食して下さり、健康維持に役立っている。エアロバイクの運動や体操の時間を多く取り入れ、筋力の維持と転倒予防に努めている。専属の看護職員を置いており、利用者の体調の変化や症状に対し、迅速な対応ができるため、本人・御家族の安心を得られている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202387-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和元年8月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく運営の項目より、地域のお店やコンビニエンスストアに入居者と職員が一緒に出向き、地域との接点を大切にしながら、日常生活支援を行っている。またホーム長の人望が厚く、職員の意見や提案が出しやすい環境にある。又、職員のライフステージに応じた働き方ができるように工夫したりして、可能な限り働きやすい環境を整備している。次に、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントの項目より、介護計画書をサービス計画実施表に詳しく落とし込んであり、現場における日常的な支援がより具体的なものとなっている。最後にその人らしい暮らしを続けるための日々の支援の項目より、食事は職員が担当制で調理を行っており、メニューも栄養のバランスをみながら作成している。また外出支援に関して、基本的には1ヶ月に1回の支援を実施していて、季節的な花見外出以外にも行先は希望に応じてファミリーレストランや回転寿司等、入居者が楽しみと感じてくれるような取組を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に、理念を口に出し共有と実践につなげるよう努めている。	ハナレイ倶楽部の理念の1つに「私たちは、地域に密着した楽しい生活が出来る様に尽くします」の文言が謳われており、地域密着型サービスとしての役割を明記している。また、理念の共有と実践に関して、入居者は人生の先輩であり、お客様であるという気持ちを忘れないようにしている。理念の具体的な実践方法としては、毎朝内容を確認するために、出勤している職員皆で声に出して読み上げたり、生活の中で楽しみを感じてもらうように、外出活動に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する中学校の運動会を見学したり、買い物には地域の店を利用するなど、交流ができるよう努めている。施設の外に出た際は、こちらから声を掛けるよう心掛けている。	併設している病院も含めて、昔から地域に存在しているため、法人として地域とのつながりには歴史がある。このような歴史的背景の基、グループホームの入居者は、職員と近隣のコンビニエンスストアや、お店にお買い物に行ったり、気候のいい時期は入居者とお散歩をして、意図的ではなく自然体で、日常的な関わりや交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する中学校の職場体験を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や、毎回異なるテーマについて情報を提供している。委員の方の質問に丁寧に応じている。外部評価の結果も、調査員の方が会議で報告されている。	最近の運営推進会議の議事録を数部確認したが、サービスの実施状況や、活動内容の報告等詳細に報告されていた。また、事故報告も発生状況や分析、対策にまとめて丁寧に公表されている。実際の会議においては、参加者の中に地域代表として、民生委員の方が参加されている。地域で生活している高齢者等の様子を、定期的に情報提供して下さるため、関わる高齢者等が安心して生活できるように、参加者皆で情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、認定調査では実情を報告し必要に応じて連絡をとっている。	定期的な関わりの場合は、2か月に1回開催している運営推進会議となっている。この場でサービスの実施状況を報告して、必要に応じて質疑応答を実施しているとのことであった。この他、入居者の認定調査での関わりがあったり、運営規程の変更に伴う内容は、電話等で尋ねて適正な運営ができるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の勉強会において知識の向上を図り、日頃よりスタッフ同士で意識して注意している。入居時に、御家族への説明と同意書により理解を得ている。(EVの施錠 20時～8時)	グループホームの出入り口にエレベーターがあり、入居者の交流スペースや職員の詰め所から少し距離があるため、日中はセンサーで反応するようにして、夜間のみ同意を得て施錠するようにしている。数年に1回入居者が施設からいなくなるという、事案が発生しているが、日中は施錠することなく、職員間での話し合いの基、様々な工夫を重ねて身体拘束をしない取組みを行っている。また、職員間で身体拘束や虐待に関する正しい知識を身に付けるために、法人内で毎年研修を開催したり、委員会を定期的に設けて、身体拘束や虐待をしないような意識付けを年間通して実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行っている。不適切ケアにあたらないよう、普段よりスタッフ同士で協力し、支援することを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会はできておらず、個人に任せられている。現在、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や事前に、説明を充分に行い、納得して頂けるよう努めている。質問には丁寧に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時には、スタッフは積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。要望などは、スタッフ間でも共有し検討している。	入居者や家族から意見や要望を聞き取る工夫として、まず入居者については、日常のコミュニケーションの場で、どこに行ってみたいかや、外食時に何を食べたいか等、特に楽しみの部分に焦点を絞って聴取を行い、意見の反映を図るようにしている。一方の家族については、できるだけグループホームに足を運んでもらうように、入居者の身の回りの日用品等が不足してきたら電話連絡して、面会してもらおう等の取組みを行っている。面会する頻度が増えてくると、必然的に話をする機会を多く持つことができるため、このような日常的な関わりの中から信頼関係を築くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行うカンファレンスにて、意見や提案する機会がある。	月に1回のカンファレンスの場合は、主に入居者の情報共有に時間を割く場面が多いとのことであった。ホーム長はこのような職員が集まる会議や、日常的な業務の場面において、運営に関するちょっとした提案や、相談事を受けることがある。この他にも法人内の考課制度の一環として活用している「チャレンジシート」というツールを介して、意見交換できる場を定期的に設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが、ゆとりを持ち、勤めやすいように勤務を考えられている。休憩室が、勤務するフロアとは別の階に確保されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開かれる研修会に参加したり、施設内の勉強会において話し合う機会を設け、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修会の参加にて交流の機会を持ち、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話・要望に耳を傾け、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の面会時には、スタッフは現状の報告をし、御家族の話にも耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・御家族の要望を聞き、支援内容に反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペース・生活パターンに合せている。一緒に家事を行ったりすることで、関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族へ現状の報告をし、一緒に考えようとする姿勢でいる。御家族の思いを汲みいれ、本人を支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何方でも訪ねて来やすい環境づくりに努めている。外出時は、景色を見て頂きながら、思い出話をするなどしている。	関係継続の支援の一例として、入居者が入居前に利用していた美容室の方がグループホームに来てくれたり、家族の支援を得ながら、外部の美容室に行く等、可能な限り関係性が途切れないように支援を行っていることを確認した。その他、グループホームとして意識していることは、何よりも一番身近な存在である家族の面会で、可能な限りグループホームに足を運んでもらえるような工夫を持続的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう声を掛けたり、利用者同士の関係に配慮しながらコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせ等があれば、丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしや趣味・希望する事等、本人・御家族と話し、出来る限り把握できるよう努めている。	思いや意向の把握は入所時に本人や家族から生活歴を聞き取り、歩んでこられた人生や暮らし方・考え方・趣味・好きなこと・嫌いな事を確認している。これまでの暮らしの習慣を継続しながら、ここでできることしたいことを把握している。「本や新聞を読みたい、畑仕事をしたい、美味しいものを食べたい。」との意向に対し、出来得る限り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの確認、本人・御家族との話から、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化にも気付けるよう、情報の共有・現状の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスで話し合い、本人やご家族の意見も取り入れて作成されている。	介護計画がサービス計画実施表に、サービス内容として細かく落としこまれており、日々計画に即したサービス提供ができていくかどうかのチェックが成されている。現場での支援がより具体的にできるようになっている。月に1回のカンファレンスに於いても、計画とサービスの整合性の話し合いを行っている。車椅子の入居者が自身で移乗できるようになった支援が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等は記録に残し、スタッフ間の情報の共有を心掛け、変化時はその都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の意向に沿ったサービスができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の時は地域の店を利用するなど、楽しく生活できるよう支援している。行事・外出レクリエーション・中学校の運動会の見物などができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、希望によりかかりつけを選択してもらったり、併設する病院での定期受診や急変時にも対応できるよう支援している。	母体は医療法人であるが入居時説明を行い、これまでのかかりつけ医の継続も尊重している。入居者は半年に一度併設病院で定期検診を受け、看護師も配置しており医療との連携が図れている。緊急搬送時の情報提供書も作成し、緊急時に備えている。受診時には通院記録を残し家族へ連絡している。認知症の入居者の受診や歯科の往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な処置ができるよう、申し送り時や日頃から、看護職に情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行くなどし、病院関係者から情報を得て、そうした場合に備えての関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変・重症化時は、後方支援病院へ登録し協力を得ている。本人・御家族と話し合いを重ね、希望に添えるよう努めている。	入居時に看取りに関する指針を説明し同意を得ている。マニュアルも作成しエンゼルケアやメイクに関する研修に参加している。重度化した時点で、家族と主治医が話し合いをもち、看取りを行っている。主治医と看護師・グループホームとで情報を共有し、安らかな終末期に向けての支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルは、わかりやすい場所に保管しており、目を通すようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時のマニュアル・個人支援カードを作成しており、備蓄もしている。避難訓練・消火訓練を実施しており、研修にも参加している。調理にはIHクッキングヒーターを使用している。日頃から、コンセントのチェックをしている。	消防計画にて年に2回避難訓練を行っている。法人全体で防災マニュアルが策定しており、避難経路や連絡網等を記載している。緊急時持ち出し用の個人支援カードも所定の位置に保管されている。備蓄の食品も賞味期限で回転させている。カーテンも防災のロールカーテンとなっている。地域の自治体から有事の際の避難場所としての解放依頼もある。	法人全体で有事の際には、当グループホームから避難せず、ここにいるのが安全であるという見解が出ているとのことではあるが、風水害地震と天変地異は予測不能にて、消防計画と訓練に付随して、防災に関しても計画の作成と訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にはノックをしたり、排泄にまつわる介助の際は特に気をつけている。一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な声掛けをしている。	入居者と家族には、入居時に個人情報の同意書を取り、職員にも誓約書をとっている。入居者へは目上の方、人生の先輩としての接遇を行っている。名前は名字でさん付けで呼んでいる。特に排泄に関して誘導時には、近くまで行き、さりげない声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情の観察・傾聴を心掛け、その人に合った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分配慮しながら本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の前には、本人と一緒に服を選んだりしている。訪問美容室を利用している。時折、マニキュアや化粧をし、おしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りをしたり、希望を取り入れた献立を考えている。旬の食材を使うよう心掛けている。行事で外食の機会を設けている。	食事は職員の担当制とし、職員各々がメニューから作成している。入居者に美味しく食べてもらえるように工夫し、自分でできる調理を提供している。入居者が完食し、美味しかったといわれることが励みになるとのこと。月に一度の外出時には意向に添い、回転寿司やファミレスでの外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により、食事形態を変更したりしている。摂取量をチェックし、体重の変化にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、支援している。週に1回、洗浄剤を使った義歯の消毒をしている。定期的に、歯科の往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導・オムツ交換・声掛けを行い、チェック表にてパターンを把握できるようにしている。尊厳を守る取り組みをしている。	排泄は定時誘導を行い、チェック表に記載し介護記録へ載せ、入居者個々の排泄パターンの把握へ繋がっている。排泄は自立している入居者が多く、ポータブルトイレも夜間帯のみ少数の方が使用している。おむつやリハビリパンツは、各々の居室のクローゼット内に収めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動の声掛けをしている。チェック表にて排便状況を確認し、それに応じた対応をしている。朝食時に牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決まっているが、本人の状態に合わせてゆっくりと入ってもらえるよう支援している。	入浴は週に2回行い、ユニットで午前午後としているが、入居者の意向に添えるように対応している。脱衣室と浴室に空調機を完備し、急な温度変化にも変わりがないようにしている。シャンプーリンス等の消耗品は、グループホーム提供である。誘導時拒否があった場合には、時間をおいたり職員を変えたりしている。体調不良時には、清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、居室で横になることができる。パジャマへの更衣を支援し、安眠につながるようにしている。一人ひとりの入床時間に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し、変更時は記録に残し、申し送りもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、して頂けるもの(手伝い)を探すよう努めている。レクリエーションや外出支援を行い、気分転換の機会にあてている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の店へ一緒に買い物へ出掛けたり、天気の良い日には散歩に出たりしている。月1回は、レクリエーションにて外出の機会を設けている。御家族にも協力を求めている。	月に1回の外出レクリエーションは、職員の担当を決めて企画を行っている。四季折々の花見の他、入居者の意向を汲み外食にもよく出掛けている。グループホーム壁面に飾られた外出や食事風景の写真は、本当に楽しそうで笑顔が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には、管理して頂いている。外出時、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話など、訴え時には対応している。また、電話の取次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度を管理している。花を活けたり、月毎の飾りつけをし、季節を感じられる空間づくりに努めている。	リビングは、窓が大きく明るい。学校のグラウンドが近くにあり、子どもたちの元気な姿が見える。照明や調度品もお洒落で居心地が良い。この春に来た子犬もおり、人気者である。入居者は、日中このリビングで殆ど過ごされる。掃除も毎朝職員が行っている。壁面の飾りに細かいちぎり絵が飾っており、高齢の入居者の作品である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士が、話しやすいように席を工夫している。ソファーやダイニングの椅子など、思い思いの場所で過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は、自由に自宅で使われていた家具や御家族の写真を持ち込まれている。	居室は自宅で使われていた家具や調度品や家族写真で飾られてあり、ご仏壇を置かれている入居者も居る。馴染みの物に囲まれて、居心地のいい日々を送っている。壁の色も白で統一感があり、清潔感が溢れている。クローゼットも広く季節に応じた衣替えの収納が可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極力、安全に一人で移動出来るよう、座る場所や移動時のルートの確保をしている。トイレ・浴室などにサインの表示をしている。廊下・トイレには手すりを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部グループホーム		
所在地	佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	令和元年7月31日	評価結果確定日	令和元年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202387-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和元年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事がスタッフの手作り食である。 ・月1回の外出レクリエーションを計画・実行し、入居者の気分転換を図っている。 ・病院の経営で入居者体調等看護師やDr.に相談できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員間の申し送り後に、ハナレイ倶楽部の理念を声に出し、スタッフ同士で確認して仕事に勤める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と近隣の店で買い物に行き、笑顔で挨拶や外出も入居者の行きたい場所へ希望に添える様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会で必ず年1回は、『認知症』をテーマに皆で話し合う時間を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、状況報告を行い、委員の方の意見や質問・問題点等を話し合いサービスに活かせる様努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や入居者の認定調査時には、日常の様子をきちんと伝えるよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に説明を行い、御家族に同意を得て、徘徊が強い方に対しては、センサーマットを使用することもあり、巡回を多くして注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で『虐待』について学び、防止に努めている。又、敬意をもって接する気持ちを忘れないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について解らない時は、管理者に問い、学ぶ機会を設け、理解する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分な説明を行い、理解を得ている。利用者や家族の不安や疑問については、その都度、説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、面会に来られた時は、必ずスタッフが挨拶をし、意見等言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、問題がある場合は、その都度説明を行うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや勉強会を行い、意見の交換を行い、実践に繋げる様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者主催の親睦会が年に数回計画され、職員も楽しみに参加している。また、公休や有休も希望に沿ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのスタッフに合った研修に参加させ、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修会に参加し、同業者との交流や意見を聞く機会を設け、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中から、うまく聞き出し、本人の不安や思っていることを把握出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらが一方向的に聞くのではなく、親身になって耳を傾け、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が知らないサービスがあるとして、こちらから本人にとって良いサービスがあることを家族にすすめる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	午前と午後2回レクリエーションの時間を設け、話す時間をつくるようにしている。また、一緒に洗濯物を畳んだり、世間話をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況や施設での暮らしぶりを家族に伝える事で家族も施設での生活を知ることができる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の方が来られたり、行ったりされ、配達を希望される等、途切れない様支援をし、また知り合いが面会に来られた時には、帰り際に「また来てください」と声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が同じ部屋でくつろいでいる時は、邪魔することなく、関係性を大切に見守る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院した時など、今後の相談・支援に努めている。また退所された後も本人や家族とは近況報告を		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族を交えて本人が望んでいる事を把握し、ケアプランに反映されている。また、一人一人が自分のペースで過ごせるよう、スタッフ同士で話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴を聞き、カルテに綴じている為、いつでも一人一人の生活歴を知ることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、顔色や行動を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスの実施やその都度、問題点等を出し合い、それについて話し合い、よりよい施設での生活が送れるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気付いたことを記録に残し、申し送り時に共有し、介護計画の見直しに活かすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の機関の協力も得て、その人に合ったサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に新鮮な物を近くの店舗を利用し、安全な食生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	院内内の施設なので、受診もでき、後方支援病院もある為、適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には、看護師が入居者の体調を把握し、介護スタッフへ適切な処置等を伝えたり、受診の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している他の病院との密な関係を保っており、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とも今後の事なども十分に話し合い、その都度、出来る事や家族の希望も聞き入れ、チーム支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、マニュアルを準備し、常に目につくところに置き、慌てない様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアルの作成と備蓄も準備している。また、運営推進会議でも地域の方と協力体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人や全体に対しての対応は、敬重する心で接するよう心掛け、羞恥心を傷つけない様優しく言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い、出来る事はしてもらい、出来ない部分を手伝っている。また、話に詰まったりその先が出てこない場合は、うまく言葉を引出させ、本人の口から言えるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースに合わせ、レク等の参加にも声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、普段着ていない外出着を着て頂き、気分を盛り上げる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のマット等は一人一人が引き出しにしまい、食事中もCDを流し、明るい雰囲気づくりをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューがかぶらない様、野菜、肉、魚の献立を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、見守りや一人で出来ない人にはスタッフが磨き、仕上げ磨きも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、その方に応じたトイレ誘導や排便チェックを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やヤクルトを飲んで頂き、その人に合う運動を行っている。また、-3日より排便がない場合、下剤を服用したり、水分をこまめに飲んでもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決め、本人のタイミングで声掛けを行い、拒否みられた場合は時間をあけるか、スタッフを変え声掛けを行い、ゆっくりと楽しんでもらうようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後等に休息されている場合は、無理に起こしたりせず様子を見る。また、昼食後は昼寝の時間をつくり、必要な人はベッド臥床をさせる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋を見て、薬を理解し、服薬時も誤薬がないよう、名前を声にして確かめ、口に入れ、飲んだことを確認できるまで、その場を離れないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には歌を唄ってもらうようこちらから声をかけ、いつも笑顔になれるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、季節や希望に応じたり、周辺の散歩や中学校の運動会の見学等で気分転換を図れるよう計画を立て、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者にとって必要なものであれば購入し、そうでなければ本人を納得させ、欲しい物の代わりに与える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者は、本人自ら電話をかけている。また、施設の電話に家族や友人から電話が掛かってきた場合は、本人と変わり話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく窓をとってあるので、人や車の流れや自然を目で感じることができる。フロアーも広い為、入居者の行動も把握できる。また、季節ごとの飾りつけや行事にも心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室に入られた時は、様子を見に行き、その人の状態をみて、話し相手になったり、その場面で接し方を考え実践している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や写真等を飾られて、自分の部屋だと認識されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない為、車椅子の方は自操でフロアー内を自由に移動されている。		